

平成31年(令和元)度 学校自己評価表

学校運営方針

目指す生徒像

どんな困難に直面しても、高い志を持って信念を貫き、純真さを失わず、社会貢献の大切さを忘れない生徒。

目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・教職員が学校課題を共有し、よりよい学校作りに共働する学校

今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進
- ⑥ 入学者数の確保

評価基準

- A:概ね達成(80%程度以上)
- B:変化の兆し(60%程度)
- C:まだ不十分(40%程度)
- D:方策の見直し(30%以下)

評価項目	目指す姿	当初計画		評価結果		
		現状	具体的方策	経過・達成状況	改善方策	
① 豊かな人間性の育成	学校生活全体を通して、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく、思慮深い生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀正しく、さわやかに挨拶ができる生徒が多い。 ○素直さがあり、明るくさわやかで、話を聴く姿勢が良い。 ○自尊意識が低かったり、特別支援が必要な生徒がいる。 ○1学年あたりの生徒数が多いこともあり、教員の目が行き届いており、生徒自身も自分の存在を認めてもらっていると認識しているものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員自らが率先して生徒への声かけを行う。 ○進路相談も含め、生徒1人1人の心情をより深く把握できるよう、カウンセリングマインドを高める。 ○生徒に話をする際、要点を把握しやすい心がける。 ○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Hyper-QUIによると、全国平均に比べて教師との関係、学級との関係、進路意識、部活動の満足度で高評価である。 一方で、授業の内容が理解できていない生徒も見られる。 ○部活動での指導の成果もあり、礼儀正しくさわやかにあいさつできる生徒が多い。 ○講話などの際、静かに集中して話が聞ける。 ○支援の必要な生徒や不登校傾向生徒に一層の対応が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校長訓話、教員からの指導を、人格形成、在り方生き方教育の観点で踏まえて充実させる。 ○発達障害と申し送りのあった生徒、不登校傾向の生徒等に対して学年・教科担任団の連携を密にすると共に、ケーススタディを行うなど修学支援体制を整え、サポートする。 ○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。
② 「確かな学力」の育成	授業改革により生徒の「考える力」を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトや視聴覚教材の利用を取り入れながら、わかりやすい授業を目指した工夫がされている。 ○クラスの中で生徒の学力の差が大きく、基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。学びなおしが必要。 ○出題範囲の広い外部模試で得点が取得できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校までの履修内容を理解するとともに、大学入試問題の分析により、授業内容を点検する。 ○積極的に授業公開を実施し、他の教員からの感想なども参考にしながら指導法の工夫改善を図る。 ○生徒1人1人の学力実態を把握し、到達目標を設定し、適切な教材・指導法を工夫しながら、確実に学力を引き上げる。 ○他校の先進的な取り組みから学ぶなど、教員1人1人が具体的な対応策を企画実施する。その際、自己評価も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力育成の小テスト「マナトレ」を総合コース・調理科で実施。成績下位者(Dランク)の生徒数が減っている。 ○公開授業を実施することが出来なかった。 ○特別講師による授業、校外学習は実施出来た。 ○プロジェクトを利用した授業が増えている。 ○ハワイ研修、台湾の高校との交流などを行った。 ○ICTを活用した授業への取り組みが遅れている。 ○他校の授業参観、学校視察などを積極的にに行った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○教室等の教育環境整備の実施。 ○教科指導の方法を改善する。特に「主体的、対話的で深い学び」の推進。 ○入試作問等として中学校教育との接続を研究する。 ○保護者、中学校教員等への公開授業を定着させる。 ○「マナトレ」の学習が成果を上げるよう、定期考査時に試験を行うなど、改善を行う。
③ 進路指導の充実	生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○一般入試で大学合格を果たせる実力をつけ切れていない。 ○自己分析ができていないのか、自分のことを他者に表現できない生徒がいる。また、志望理由がきちんと言えない生徒がいる。 ○国公立大・難関大合格者数 H25…9名(鳥根大、熊本大、静岡大) 名古屋大学 H26…7名(茨城大、鳥取大、鳥根大他) 筑波大学 H27…4名(鳥取大、鳥根大、都留文他) H28…3名(埼玉大、岡山大、高知大他) H29…4名(鳥根大、高知大他) H30…10名(防衛大、名古屋工大、鳥取大、鳥根大他) H31…6名(鳥取大、鳥根大、鳥取環境大、滋賀大、下関市大他) ○公務員合格 H27…3名(自衛隊) H28…3名(自衛隊) H29…3名(鳥取県警1人、自衛隊2名) H30…2名(鳥取県警1人、自衛隊1人) H31…1名(自衛隊1人) ○就職率100%(県内は6割) 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人面談を実施し、職業観、進路観を育成させる。 ○個々の生徒の状況を、担任、副担任だけでなく、学年団、クラブ顧問との情報共有を図る。 ○ガイダンスや講演会を実施し、進路意識を高めていく。 ○進路学習などを通して、自己分析を行うとともに、進路に対し主体的に取り組む力を育成する。 ○クラッシャーなどを利用し、家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間をとおして系統立てたキャリア指導を実施、個人面談、適性検査などを活用し、職業別・進路別ガイダンスや講演会により、早期の進路決定に向けた指導を実施した。 ○特進コースにおいては、0限授業の実施、放課後指導の充実のほか、AO入試、推薦入試に対応した指導を実施。 ○進学・就職とも3段階面接を行い、成果を上げた。 ○国公立大学の一般入試で合格する得点力について課題。 ○国公立大学・難関大学合格者数 R1…8名(室蘭工大、鳥根大2、福知山公立大、鳥取環境大2、名桜大) ○公務員合格 R1…2名(自衛隊) ○就職 JR西日本、日本郵便2、浅草ビューホテル、ANA FESTA ホテルー畑、大橋旅館 など 就職内定率100% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究の時間」の計画的実施、「キャリア・パスポート」の有効活用により、生徒のキャリア意識を高め、進路実現につなげる。 ○新しい入試制度への対応を確実に行う。 ○国公立大学の一般入試で合格する得点力をつける。 ○「総合的な探究の時間」における「課題研究」を充実させ、AO入試、推薦入試への対応を高める。 ○eポートフォリオ」の活用を推進し、大学入試データ出願に備える。 ○専門学校等における入試早期化への対応が必要である。
④ 部活動等の充実	部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶がしっかりとできている。 ○部活に加入する生徒は増えてきているが継続できていない生徒がいる。 ○部活動と学校生活が結びついていない生徒がいる。 ○全国大会入賞者数 ○県大会優勝チーム・個人 H24…1名 H24…3チーム・11名 H25…0名 H25…5チーム・11名 H26…1名 H26…7チーム・12名 H27…2名 H27…5チーム・13名 H28…1名 H28…2チーム・15名 H29…1名 H29…5チーム・13名 H30…1名 H30…4チーム・14名 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動へ加入を奨励し、活発な活動を展開する。 ○礼儀・マナー・整理整頓の大切さを伝える。 ○他者への敬意・思いやり・仲間意識・優しさ・チャレンジすることの大切さ、より良い人間関係を築くことを体感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部・文化部とも熱心に活動している部がある。一方で活動が停滞している部もある。 ○気軽に参加できる部が少ないので、なるべく多くの生徒が参加できるように工夫が必要である。 ○生徒会活動、委員会活動、週番活動について、従来どおりの活動となっているが、生徒の主体性を高める必要がある。 ○全国大会入賞者数 ○県大会優勝チーム・個人 R1…0名 R1…4チーム・14名 バスケット女子、柔道女子、吹奏楽(中国銀)、合唱(中国銀) 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動へ加入を奨励し、活発な活動を展開する。 ○部員の勧誘を充実させ、運動部では競技力の向上を目指す。吹奏楽部ではより音楽性の高い演奏ができるよう活動を充実させる。
⑤ 社会貢献活動の推進	社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○他者を思いやり気配りのできる生徒が多い。 ○部活動で募金活動、ボランティア、施設慰問、地域イベントに積極的に参加している。 ○ボランティアに参加している生徒が固定化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集を各クラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう教員や生徒会役員から呼びかけを行う。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集を各クラスに掲示、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけを行った。 ○ボランティアに参加している生徒が固定化傾向。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集をクラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう教員や生徒会から呼びかけを行う。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせる、発表の場を設ける等の工夫が必要。
⑥ 入学者数の確保	学校の魅力づくりと情報発信等により、入学志願者の増加に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○入学者が定員を満たしていない。 ○今年度の入学者数は104名。 ○生徒数増減の要因分析が行われていない。 ○特色ある教育の実施、施設の充実状況は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別進学コース0限授業。7限演習。 ・高校生レストランの実施など調理科の充実。 ・第一体育館、第二体育館、柔道場の改修。 ・寮の改修。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校の教育力向上とPR。 ② 適正な目標設定と進捗管理並びに募集方法の見直しを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・過去の生徒数推移について分析する。 ・各部活動又は各科・コースの生徒募集目標を設定する。 ・特色あるコース・科及び類型を活かした生徒募集を行う。 ・学校説明会を工夫改善する。 ・オープンスクールを工夫改善する。 ・生徒募集に対する研修を行う。(成功事例発表・ロールプレイング) ・進捗状況を管理し、対策を更新する。 ③ 本校の魅力発信を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の誇れる教育活動の記録を徹底する。 ・HPをリアルタイムで更新する。 ・パンフレット魅力化により本校のブランド力アップを図る。 ・生徒の地域活動を積極的に推進する。 ・マスコミを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○入試方法を「推薦入試」「一般入試」の区分で実施。 ① 学校の教育力向上とPR。→高校生レストラン等で成果 ② 適正な目標設定と進捗管理並びに募集方法の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・過去の生徒数推移について分析。→実施 ・各部活動又は各科・コースの生徒募集目標設定→困難 ・コース・科及び類型を活かした生徒募集→推薦B実施 ・学校説明会の工夫改善→倉吉北高Q&Aを作成・配布 ・オープンスクールの工夫改善→例年どおり実施 ・生徒募集に対する研修→対応できず ・進捗状況を管理し、対策を更新→毎日、更新実施 ③ 本校の魅力発信を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の誇れる教育活動を記録→新聞記事を配布 ・HPをリアルタイムで更新→遅れ気味のものあり ・パンフレット魅力化→実施 ・生徒の地域活動を積極的に推進→対応不足 ・マスコミを積極的に活用→地元紙の協力あり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◎「推薦入試」「一般入試」について周知が重要。 ◎ 学校の教育理念・教育の特徴などについて議論し、正式に決定することが重要。 ①教育力向上を具体的にPRできる取り組みが必要。 ②オープンスクール、学校説明会の工夫改善が必要。